

# 番組審議会

## 第703回

2026年4月20日

### ■ 委員の出席

委員長	音	好	宏	
副委員長	江	澤	佐知子	
委員	川喜田	尚		田中東子
	洞口	依子		長嶋有
	二関	辰郎		目加田説子
	谷本	歩実	(レポート提出)	

TBSテレビ	龍	宝	社長	
	合	田	専務	
	井	上	取締役	
	三	城	コンテンツ戦略局長	
	石	橋	コンテンツ制作局長	
	石	井	コンテンツ制作局 ドラマ制作部長	
	東	仲	プロデューサー	
	藤	田	編成考査局長	
	浜	崎	カスタマーサクセス室長	
	加	来	番組審議会事務局長	

### ■ 議事概要

#### 1. 審議事項

(1) 日曜劇場「リブート」

(2) その他

#### 2. フィードバック

(1) 2月審議番組「この歌詞が刺さった！グッとフレーズ」

#### 3. 報告事項

(1) 番組種別公表制度に基づく、

## 2025年10月～2026年3月の放送実績について

### 4. 事務局報告事項

#### (1) 視聴者からの声

#### (2) 次回審議会の議題及び日程

#### 【審議番組について】(日曜劇場「リポート」)

整形医療技術やIT技術の飛躍的進化によって、「なりすまし」事件は、近年、増加の一途を辿っている。海外では、長年全くの別人になりすまして新たな人生を送っている事件が多数確認されている。

穏やかで幸せだった夫が、ある日、妻殺しの罪を着せられて、すべてを捨てて、「別人」になりすまし、事件の真相を追いかける究極の夫婦愛であり、家族愛の物語。

圧倒的な状況に追い込まれても家族のために命を懸け、「再起動」に向かって突き進む主人公を描くことで、ストレートな家族愛を表現するドラマを目指した。

#### 【委員の主な意見】

- 政治汚職から若者の貧困、闇バイトなど今どきのテーマも盛り沢山で、後半の盛り上がりはストーリー展開も含めて、全体としては見応えのあるドラマに仕上がっていた。
- サスペンスドラマは娯楽番組として純粋に楽しめればよくて、次にどうなるのかハラハラさせる場面展開が何重にもあって、この番組は成功していると思った。
- 合六が大金を政治家への献金に用いる目的・動機や家出した子供たちを保護する冬橋がお金のために簡単に人殺しを行うなど設定にやや極端で無理がある印象を受けた。
- 第5話では、絡んでいる二人が同じ人で違う人格を演じるという見る側には自然でありながら、演じる側には大変なことを行う鈴木亮平さんの演技力に

改めて感心した。

- 各俳優が役に深みを持たせ、物語に説得力を与えていた。なかでも感情の部分に敢えて言葉を乗せず、表情や間で表現する演技が印象的だった。
- 鈴木亮平さんが圧倒的過ぎて、主人公以外に好きになれるようなキャラクターがもう少し周りになるとよかった。
- 幅広い年齢層に知られていて、誰とでも「リブート」の会話を発展できるほど認知度が高いドラマであることを体感した。
- 劇中に出てくるNPO法人「しえるたー」は闇組織やマネーロンダリングに関与している設定となっているが、これは特殊な例であることをドラマ内でもう少し説明、強調していただきたかった。社会にNPO法人に対する偏見・誹謗が広がることであってはいけないという点を危惧して拝見していた。
- 闇バイトや貧困、NPO法人「しえるたー」などそう描くのかというところがあつたが、推理ドラマを家族で見るということに視点を置いた場合、このぐらいの感じかなと思って見ました。
- 暴力的なシーンは唐突かつ生々しい演出で子供と一緒に見るか考えた。また、テンポの良さの裏返しとして、人物や背景の掘り下げが不足していると感じる部分があり、展開に追いつきづらい瞬間もあった。
- ジェットコースターのような急展開の連続ということが目的化されているドラマだと思った。次話への引きをつくるためだけに「12時まで10億を持ってこい」などリアリティの無さ、必然性の無さに白けないのが不思議でならない。
- 日曜劇場は、社会性とエンタメ性の強さをテーマに持つドラマ枠であり、年齢層、ジャンルを広げることができる挑戦的な枠でもあるので、突っ込みどころ

が沢山あってもめげずに領域を広げて刺さるものを作ってほしい。

【局からの回答】

- NPO法人の扱いなど裏設定ではうまく描ききれなかったと改めて痛感。描き方がちょっと薄かったので、そのように捉えられてしまうのはお伺いしていてすごく実感した。今後こういうキャラクターを描いていく上では特に重要だなと思った。
  
- 荒唐無稽な設定ということに関しては、ジャッジメントを目の当たりにしている中で、かなり意見が分かれていた。無茶苦茶な話じゃないか、という意見もあった上で、何とかちゃんとしたものにしていかなければいけないと思った。
  
- ちょっとした軽はずみで罪を犯してしまうことが多い昨今、今回のドラマでは、そういったものを決して容認せずに罰せられていくことを描きたいと思っていた。全編を通して伝えたかったメッセージとしては、世間の同情を買ったから許されるわけではなく、犯罪は何事でも罪を償っていただく、ということを描きたかった。

【フィードバックについて】

(2月審議番組「この歌詞が刺さった！グッとフレーズ」)

当番組は、2月審議会の後、3月11日に第24弾を放送。4月30日には、第25弾を放送予定。番組プロデューサーより審議会でのご指摘、ご意見を制作に活かしたとの報告を受けた。

- 「応援歌一辺倒だった」ということに関しては、4月30日放送回で幅広い分野の歌詞が楽しめる構成になるようにテーマを設定。  
「あなたの“青春”がそこにある」として、青春ソングだけではなく、恋愛ソングなど多様な歌詞が楽しめる3時間を構成。

- 「誰か一人の強く刺さった知られざる歌詞にこそ発見があり、紹介する意味がある」ということを受けて、「マイオンリーワングットフレーズ」の枠を拡大した。
  
- 「アーティストの解釈がもっと聞きたかった」というご意見については、スタジオで歌詞について議論を深めるブロックを新設、番組のオリジナリティをより表現できるフォーマットが見えてきた。